

肺がん検診（地域）

動 向

平成19年度における地域住民対象の巡回肺がん検診の実施市町村は7団体、受診者数5,528名であった。

一次検診を当協会で行った後、精密検査を地域医師会にて実施している綾瀬市においては、オープンダブルチェックを実施しており、一次検診フィルムの比較読影のチェックのみならず各医師会の精密検査医療機関へのデータ提供の利便を図っている。当協会は各医師会の精密検査フィルム読影会に専門医師・放射線技師・担当職員が参加して、フィルムの比較等を行い一次検診の精度管理向上に努めている。

13年度より厚木市医師会においては、受診者の拡大を目的として集団検診から施設医療機関で実施している基本健康審査と肺がん検診の併用実施に移行した。医療機関で直接撮影を実施し一次読影は施設の医師が行い、二次読影を当協会の専門医師が行い読影結果を実施機関にフィードバックしている。19年度の実施医療機関は、66機関・読影数は22,394件で検診開始時の13年度より8,939件の増加となった。また、フィルムの精度管理や精検結果把握のためカンファレンス・反省会が実施されている。

方 法

胸部単純二方向撮影（間接）と喀痰細胞診による。二方向は背腹、腹背撮影であり、細胞診の対象は問診により血度などを認めたものおよび所謂ハイリスク群と判定されたものについて行なう。細胞診は蓄痰法で複数日に採痰を自ら行ない検診日に持参、酵素融解法でありスライド標本2枚作成による変則ダブルチェック方式である。細胞診の判定指示については読影医は関与しない。X線フィルムの読影は異時ダブルチェック方式を厳守しているが、比較読影は読影医の判断、裁量に任せていて全例には行っていない。読影は先ず当予防医学協会呼吸器検診部において前述した如くに行ない、判定と指示をしたのち地域医師会の肺がん検診担当部に送付し、その後の処理がなされる。地域によっては地域医療としての意義から精密検査該当症例について地域医療機関において精密検査を行なった結果について精検例の読影、判定会を開き、ここには呼吸器検診部として医師、放射線技師、業務部担当職員が参加している。現在は厚木市綾瀬市にのみ実施しているが厚

木市については後述する。

結 果

受診者総数は5,528名で昨年に比して13%増となっているが、地域団体数は7地域として増減はなく同一市町村に限られている。性別では男性2,280名、女性3,248名と2:3で例年通り地域の性比としては妥当である。このうち喀痰細胞所への適応となるのは血痰、ハイリスク群として823名で全体の14%を占めている。この性比は男性に多く3:1となっている。

喀痰細胞診中、要精密検査の対象となるのは1例のみであった。胸部X線撮影にて要精検数は232名4.2%であり、このうち精検受診者は133名で57.3%である（表1）。性別でみると要精検者は男性に多く2.1%増であるが、精検受診者は女性に優位に多く7.5%増である。この辺りが性別にみる呼吸器疾患所見の有無と精検受診可能な環境、事情を窺うことができるようである。

精検受診者は昨年に比して50%を大きく上廻っており十分な値ではないにしても満足すべき限界かも知れない。

受診者の年齢構成としては60歳代が最も多い。昨年度は39歳以下が12名であり本年度は8名となったが、やはり現場では強い希望があったものか。また40歳前半が後半に比して約50%多いのは何故なのか、これは昨年からも同様の傾向である。

肺がんは4例にみられた。受診者総数の0.07%、要精検者数の1.3%で60歳代2名、50代、70代が各1名ずつであり男女夫々2名ずつである。

現時点では未把握は120名。

肺がん症例の4例はいずれもX線所見によりD又はE判定をされていてD1名、E5名である。

喫煙指数は男性1名のみ1200。

厚木市の肺がん検診は平成13年より住民基本健診と併用して胸部X線撮影は地域医師会の約50医療機関が行ない、一次読影を原則として受診医療機関で行ない、二次を当協会で行なっている。この結果については月一回の医師会により合同判定会を開催し、これには当協会から医師、放射線技師、業務部職員が参加して精度の向上につとめている。

関係の集計表は83頁に掲載